

北信

信州ワイド

信濃毎日新聞

「マツタケが待ってる」森林整備

伊那

首都圏からバスツアー

伊那市富原の松林で10日、主に首都圏に住む25人が、落ち葉や木の枝を取り除きマツタケが出やすいような環境につなげる作業をした。森林への関心を高めようと、植樹や森林整備をしているNPO法人「森のライフスタイル研究所」の森のライフスタイル研究員が、松林所有者の協力を得て、森林整備などの会社勤務の藤原さん(46)が指導。参加者はアカマツの根元付近の落ち葉を熊手でかき、枯れ木や枝を遠ざけた。鹿のふんに声を上げる人もいた。千葉県の会社員岡嶋美千子さん(36)は「頑張った先にマツタケが待っていると、こんなにすてきなことはない」と話した。



熊手で落ち葉をかく参加者たち

藤原さんによると、アカマツとマツタケの菌は養分を送り合うなど共生関係にあり、マツタケの胞子がアカマツの根に触れてマツタケが生えてくる。落ち葉をどけるとマツタケが生えやすく、まきを探りに松林を大勢が歩いたところは落ち葉がたまりにくかったため、マツタケも多く見られたという。

同研究所は、10以上の松林を3年かけて整備する計画。ツアーは随時行う予定で、代表理事所長の竹垣英信さん(42)は「貴重な松林を元気にして地域の資産にした」と話していた。

原祥雄さん(46)は「伊那市富原が指導。参加者はアカマツの根元付近の落ち葉を熊手でかき、枯れ木や枝を遠ざけた。鹿のふんに声を上げる人もいた。千葉県の会社員岡嶋美千子さん(36)は「頑張った先にマツタケが待っていると、こんなにすてきなことはない」と話した。